

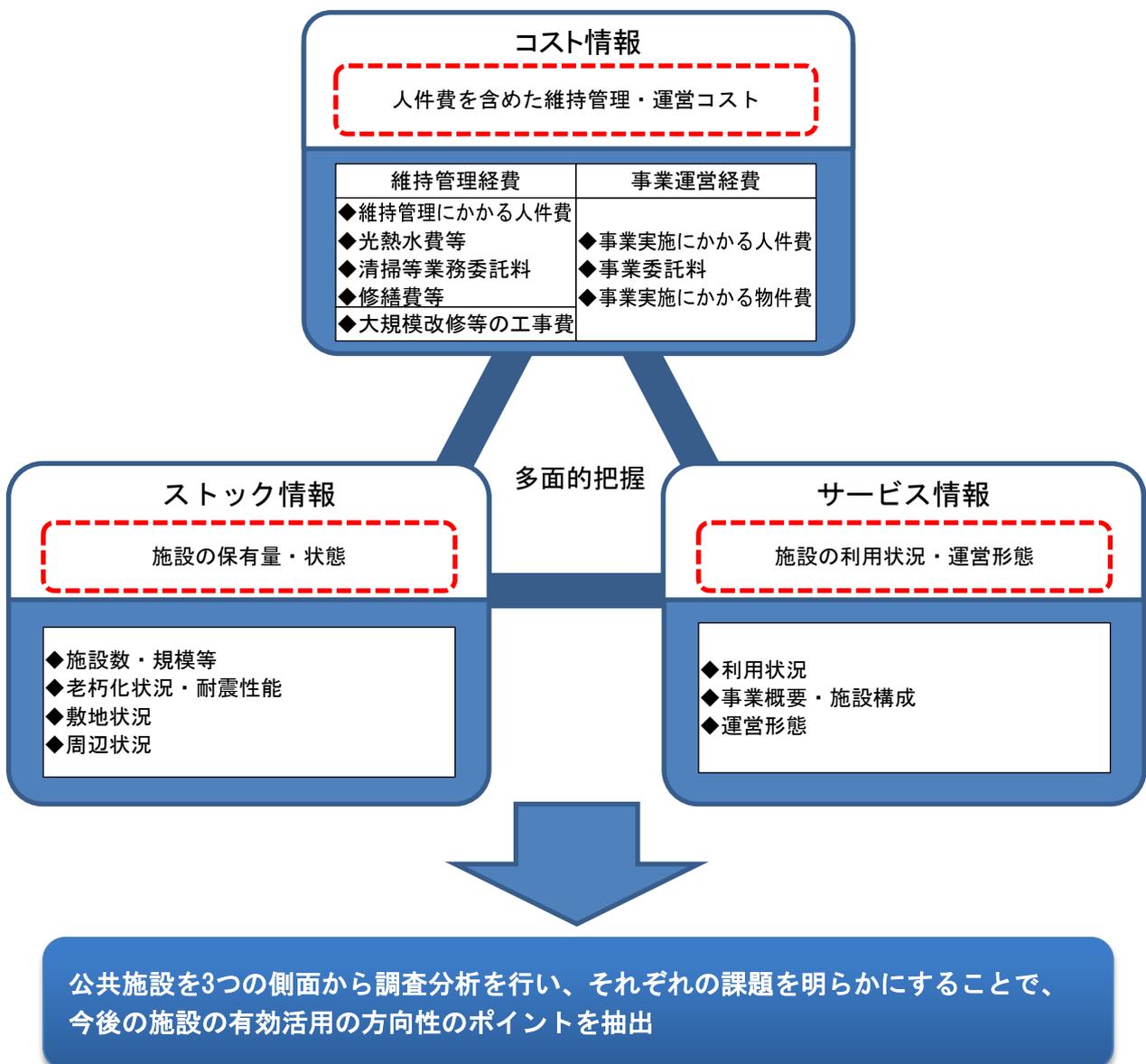
第3章 分類別公共施設の現状と課題

1. 「コスト」「ストック」「サービス」の的確な把握

資産を有効活用していくためには、その実態把握が必要不可欠です。実態把握には、建物の老朽化や耐震化の状況だけでなく、市民の利用状況や運営形態、さらには施設の維持管理にかかる費用やそこで行われる事業の費用など様々な視点から調査分析を行う必要があります。

そこで、コスト情報として、施設の維持管理費やそこで市民に提供されるサービスにかかる事業費に人件費等を含めた全体経費を把握しました。ストック情報としては、建物の構造、面積、耐震化対策の状況などを把握し、サービス情報としては、施設の利用者数の状況や運営形態の状況などを把握しました。

コスト情報、ストック情報、サービス情報の3つの視点から公共施設及びそこで提供される行政サービスの問題点や課題を抽出し、今後の有効活用の方向性を検討していくポイントを明らかにしました。



2. 対象施設及び公共施設配置状況

本白書では、実態を把握する対象施設を施設機能別に分け整理しました。

機能分類は、過去に策定した「旭市公共施設の活用方針」に基づき行っています。

なお、本調査では、旭中央病院の管理する施設を除く市が保有する又は管理する全ての施設を対象としています。

大分類	大分類施設数	中分類	中分類施設数
1 市庁舎	6	本庁舎・分庁舎	3
		支所	3
2 医療・保健・福祉施設	11	医療関連施設	1
		保健センター	4
		健康関連施設	3
		福祉関連施設	3
3 保育所・児童関連施設	16	保育所	14
		児童関連施設	2
4 学校教育関連施設	22	小学校	15
		中学校	5
		給食センター	2
5 生涯学習関連施設	16	公民館・公民館等類似施設	10
		図書館	1
		文化施設	4
		その他教育・文化施設	1
6 スポーツ施設	24	体育館	5
		野球場	5
		庭球場	4
		その他スポーツ施設	10
7 産業関連施設	10	農業関連施設	5
		観光関連施設	3
		宿泊施設	2
8 生活環境関連施設	22	水道施設	5
		下水道・汚水処理施設	6
		ごみ処理施設	3
		公衆トイレ	8
9 消防・防災関連施設	62	消防本部・消防署	4
		消防団関連施設	54
		防災関連施設	4
10 市営住宅	12	市営住宅	12
11 公園	72	都市公園	11
		児童公園	42
		農村公園	4
		その他の公園	15
12 その他施設	4	その他の施設	4
施設数計			277

3. 施設の実態把握

ここでは、施設の機能分類別及び施設ごとに「コスト(人件費等を含めた施設の維持管理費やそこで提供されるサービスの事業費など、施設運営にかかる全体経費)」、「ストック(建物の建築年、面積、耐震化対策の状況など)」、「サービス(施設の利用者数の状況など)」の3つの視点の把握を行うことで、施設の抱える課題や問題点を抽出していきます。さらに把握した情報を評価値として算定することで、視覚的に施設の課題箇所を確認できるようにしていきます。

施設の課題や問題点を抽出していくにあたっては、次の項目で調査や分析の結果を記載しています。なお、施設の機能や用途によって実態把握が困難な項目は、その記載を省略しています。

- ① 施設概要：各施設における建物の状況(棟毎の延床面積、建築年、耐用年数、耐用期限のほか、耐震性能の有無や建物内の他の機能情報など)を記載しています。なお、各施設の総延床面積は、端数処理の関係で表記している棟毎の延床面積の合計数値と異なる場合があります。
- ② 利用実態：各施設における利用状況を、利用者数等の指標を用いて、過去5年間の平均又は平成24年度実績で記載しています。また、数値に震災直後の特異性が見られる場合や数値が収集困難な場合は、その年度を集計対象外としています。
- ③ コスト分析：各施設の運営にかかる人件費を含めた経費を、維持管理費、工事費、事業運営費に分けて、過去5年間の平均又は平成24年度実績で記載しています。また、数値に震災直後の特異性が見られる場合や数値が収集困難な場合は、その年度を集計対象外としています。
- ④ 施設評価：施設概要、利用実態、コスト分析の結果等をもとに6つの項目で評価を行い、評価結果をレーダーチャート図で表しています。建物以外の施設は評価対象外としています。

【構造安全性】

施設内の建物の耐震性能の状況

【建物健全度】

建築後の経過年数、雨漏りや外壁塗装剥離などの建物自体の損傷状況のほか、給排水や空調機等の付随する設備の老朽度合い

【バリアフリー対応】

すべての人が安全で快適に施設を利用できるようにするためのスロープや手すり、多目的トイレ、エレベーター設備等の対応状況

【環境安全性】

吹付けアスベストやPCBを使用した箇所、設備の有無及び対応状況

【利用効率性】

施設が効率的に利用できているかを、単位面積あたりの利用者数などから、機能分類ごとに偏差値等を用いた相対評価

【費用効率性】

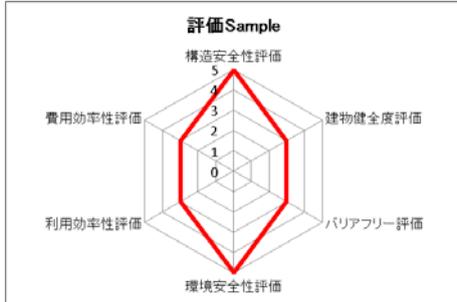
施設の運営が効率的になされているかを、利用者一人当たりの市の負担額などから、機能分類ごとに偏差値等を用いた相対評価

- ⑤ 分析・課題抽出：上記の施設概要から施設評価までの結果をもとに、数値として表れないものを含めて総合的に分析し、施設の課題や問題点を抽出しています。

<公共施設の評価方法>

本白書では、施設の抱える問題点や課題を6つの評価軸で設定し、それぞれの評価結果をあてはめることで視覚的にその課題箇所を把握できるようレーダーチャート図を使用しました。

評価に当たっては、以下の指標をもとに行い、数値基準等により評価できるものは絶対評価として、適正な数値基準を設定できない場合は、機能分類内での相対評価として実施しました。それぞれの評価には、数値等の裏に隠れた課題がある場合は、評価を変化させるなど柔軟性を持たせています。



<6指標評価>

- ① 構造安全性：耐震診断や耐震改修の実施状況
- ② 建物健全度：築年数を踏まえた建物や設備の老朽化の度合い
- ③ バリアフリー対応：全ての人に使いやすい施設となっているか
- ④ 環境安全性：飛散性アスベスト建材やPCBの使用状況や対応状況
- ⑤ 利用効率性：単位面積あたりの利用者数や施設の稼働率等
- ⑥ 費用効率性：利用者一人当たりの市の負担額の状況等

<評価基準>

No.	指標	評価値	評価基準等		
1	構造安全性	5	(基準適合) ・敷地内全ての建物が耐震性能を確保している (小規模建物を除く)		
		4	(対応中) ・耐震診断を実施し、今後3年以内に耐震改修が予定されている ・一部の棟で耐震改修が未実施		
		3	-		
		2	(対応必要) ・旧耐震基準建物で耐震診断を実施済み(耐震性なし)で耐震改修時期未定		
		1	(早急な対応必要) ・旧耐震基準建物で耐震診断未実施		
2	建物健全度	5	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <築後30年未満> (良好) ・雨漏り、外壁塗装剥離等なし ・内装の破損、配管の詰まりなし </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <築後30年以上経過> (良好) ・過去10年以内に大規模改修を実施し、機能改善を図り、問題が発生していない </td> </tr> </table>	<築後30年未満> (良好) ・雨漏り、外壁塗装剥離等なし ・内装の破損、配管の詰まりなし	<築後30年以上経過> (良好) ・過去10年以内に大規模改修を実施し、機能改善を図り、問題が発生していない
		<築後30年未満> (良好) ・雨漏り、外壁塗装剥離等なし ・内装の破損、配管の詰まりなし	<築後30年以上経過> (良好) ・過去10年以内に大規模改修を実施し、機能改善を図り、問題が発生していない		
		4	(概ね良好) ・外壁や内装等の極一部に老朽化が見受けられ、軽微な補修で対応可能 ・軽微な設備修繕で対応可能		
		3	(一部未実施の修繕項目有) ・一部に老朽化が見受けられるが、軽微な補修のみで今後10年程度対応可能		
		2	(老朽化進行) ・事業活動に大きな支障は発生していないが、一部老朽化が見られ、近年設備等の修繕が増加傾向にある		
1	(老朽化進行が著しい) ・雨漏り、外壁破損等、複数の箇所に老朽化が見られ、早急な大規模改修が必要と判断される ・事業活動に支障をきたしている				

No.	指標	評価値	評価基準等
3	バリアフリー対応	5	(対応済み) ・次の6項目全て対応[エレベーター(複数階施設)・身障者用トイレ・視覚障害者誘導設備(点字ブロック等)・車椅子用スロープ手すり(内部外部)・障害者用駐車スペース・自動ドア]
		4	(概ね対応済み) ・一部に不足があるが、軽微な追加工事で対応可能(複数階建物はエレベーター必須)
		3	-
		2	(一部対応済み) ・2項目以下の対応 ・概ね対応しているが、エレベーターが未設置
		1	(未対応) ・一切のバリアフリー対応をしていない ・対応するには、大規模改修が必要
4	環境安全性	5	(安全) ・飛散性アスベスト含有建材なし又は撤去済み ・PCB使用製品なし
		4	-
		3	(対策中) ・飛散性アスベスト含有建材があるが、封じ込め等応急処置済み ・PCB使用製品把握済みで一括集中保管済み
		2	(飛散状況確認済み) ・封じ込め等応急処置は未実施だが、空气中濃度測定を実施し、飛散のないことを確認済み
		1	(対策必要) ・飛散性アスベスト含有建材があり、対策をはかっていない ・飛散性アスベスト含有建材の使用状況未調査 ・PCB使用製品把握済みで未対策
5	利用効率性	5	・単位面積当たりの利用者数が多い等 (偏差値60以上)
		4	・単位面積当たりの利用者数がやや多い等 (偏差値54以上60未満)
		3	・単位面積当たりの利用者数が平均的等 (偏差値47以上54未満)
		2	・単位面積当たりの利用者数がやや少ない等 (偏差値40以上47未満)
		1	・単位面積当たりの利用者数が少ない等 (偏差値40未満)
6	費用効率性	5	・単位面積当たり(利用者数当たり)の市の負担額が少ない等 (偏差値60以上)
		4	・単位面積当たり(利用者数当たり)の市の負担額がやや少ない等 (偏差値54以上60未満)
		3	・単位面積当たり(利用者数当たり)の市の負担額が平均的等 (偏差値47以上54未満)
		2	・単位面積当たり(利用者数当たり)の市の負担額がやや多い等 (偏差値40以上47未満)
		1	・単位面積当たり(利用者数当たり)の市の負担額が多い等 (偏差値40未満)

※施設の機能分類によって評価不要と判断される指標がある場合や評価が困難な場合は、評価値を「3」とします。

(1) 市庁舎

① 施設概要

市庁舎機能としては、大きくは本庁舎、2つの分庁舎、3つの支所で構成され、本庁舎機能の一部は、分庁舎及び支所等に分散配置されています。

これらの施設の中で本庁舎は、昭和39年(1964年)に建築され最も古い建物となっており、既に築49年が経過しています。庁舎機能には、付属施設として倉庫、車庫、機械室等の大小様々な付属施設が配置され、庁舎機能施設のすべてを棟数で見ると40棟に及びます。

海上支所及び飯岡支所には、施設の老朽化や津波の被災により移転した消防分署機能を置いています。また、南分館は、手狭な本庁舎を補うため、隣接建物を賃借しています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
1	本庁舎	3,457				
	本庁舎	2,857	1964(S39)	50	2014(H26)	耐震性なし(Is0.23)
	書庫	100	1964(S39)	50	2014(H26)	(小規模建物)
	第二分館	417	1993(H5)	38	2031(H43)	耐震性有(新耐震基準建物)
	分室	83	1989(H1)	30	2019(H31)	耐震性有(新耐震基準建物)
2	第二庁舎	649				
	第二庁舎	603	1969(S44)	50	2019(H31)	耐震性なし(Is0.39)
	増築部分	46	1981(S56)	50	2031(H43)	
3	南分館	745	1993(H5)	38	2031(H43)	>つどいの広場
4	海上支所	2,951	1984(S59)	50	2034(H46)	耐震性有(新耐震基準建物) >海上分署
5	飯岡支所	2,296	1974(S49)	50	2024(H36)	耐震未診断,>飯岡分署
6	干潟支所	3,649				
	支所庁舎	3,409	1982(S57)	50	2032(H44)	耐震性有(Is0.95),>保健センター
	車庫/会議室	239	1982(S57)	38	2020(H32)	耐震性有(Is0.62)
*	付属施設(集計対象外)	2,445	1964(S39)~			倉庫、車庫、機械室等

※庁舎機能に内包するその他機能は、備考欄に「>」の記号をもって表記する。

・各庁舎の利用状況

施設名称	配置されている部署
本庁舎	3F 議会事務局, 議場
	2F 秘書広報課, 行政改革推進課, 総務課, 企画政策課, 財政課, 監査委員事務局
	1F 税務課, 市民生活課, 保険年金課, 高齢者福祉課, 会計課
第二分館	2F サーバルーム
	1F 社会福祉課
分室	1F 会議室
第二庁舎	2F 都市整備課
	1F 環境課
南分館	3F 会議室
	2F つどいの広場
	1F 子育て支援課, 会議室
海上支所 ※エレベーター設置	3F 書庫, 会議室, フレンドあさひ
	2F 庶務課, 学校教育課, 情報センター, 会議室
	1F 生涯学習課, 住民室, 企画政策課(情報管理班), サーバルーム 消防署海上分署
飯岡支所	2F 会議室, 市民ギャラリー, 文書館分室
	1F 建設課, 住民室, 消防署飯岡分署
干潟支所 ※エレベーター設置	3F 会議室
	2F 会議室, 干潟保健センター
	1F 農水産課, 農業委員会事務局, 住民室, 会議室

② 利用実態

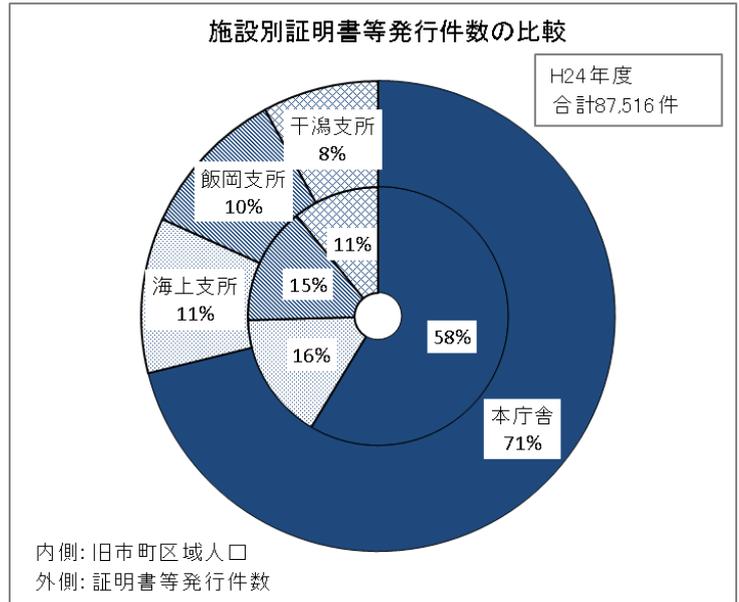
市庁舎において提供するサービスの利用実態として、本庁舎及び各支所における証明書等の発行業務について、比較を行いました。

平成24年度では、全体で87,516件の証明書等の発行があり、そのうち7割が本庁舎での発行となっています。

旧市町地域の人口の割合と比較してみると、本庁舎での発行が、人口率に比べて高くなっています。

次に、施設機能の利用実態として、会議室の利用状況では、

各支所の会議室は、本庁舎の会議室の利用状況に比べ極端に低く、施設全体の利用率が低い状況にあります。また、各施設に勤務する職員数から職員一人当たりの延床面積で比較してみると、最も狭い本庁(第2分館等含む)と干潟支所では、4.5倍の開きがあります。

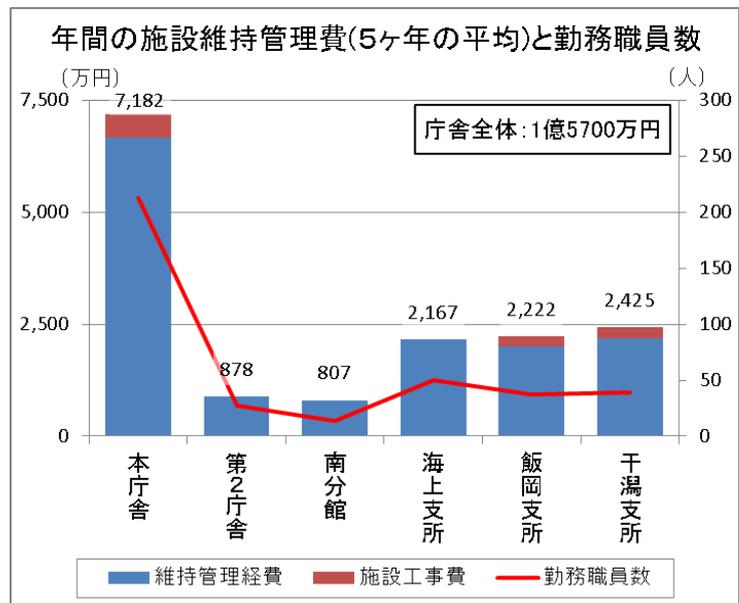


No.	施設名称	延床面積 (㎡)	職員数 (人)	職員一人当たり単位面積 (㎡/人)	備考
1	本庁舎	3,457	213	16.2	第2分館等含む
2	第二庁舎	649	27	24.0	
3	南分館	745 (493)	14	53.2 (35.2)	
4	海上支所	2,951	50	59.0	消防分署の常駐人数を含む
5	飯岡支所	2,296	37	62.1	消防分署の常駐人数を含む
6	干潟支所	3,649 (2,814)	39	93.6 (72.2)	

※()内数値は、庁舎機能数値であり、建物面積から庁舎以外の部分を除いている。分署は、人員数を計上しているため庁舎機能床面積に含めて比較する。

③ コスト分析

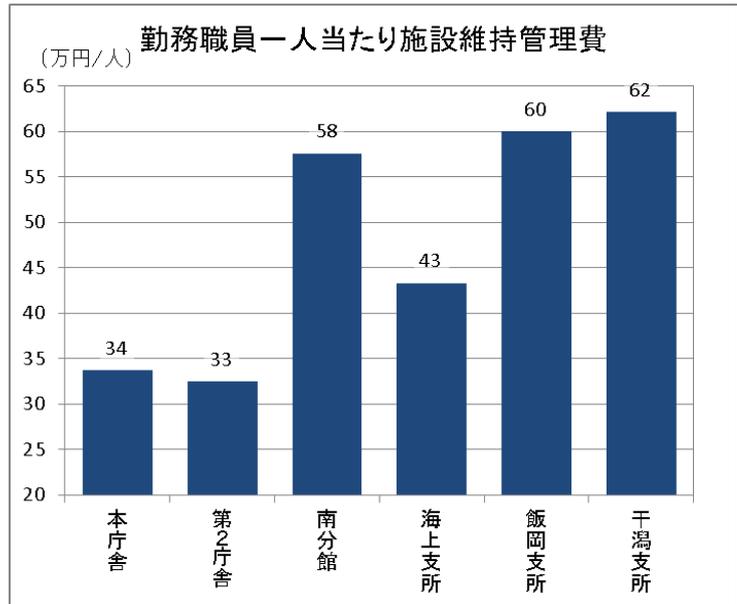
施設に係る維持管理費を過去5年間の平均額で比較すると、本庁舎が最も高く年間約7,200万円、最も低いのは南分館で800万円となっています。また、勤務する職員数を踏まえて比較すると、概ね勤務職員数に比例した維持管理費用となっていますが、職員一人当たりでは、本庁舎34万円/人、第2庁舎33万円/人、南分館58万円/人、海上支所43万円/人、飯岡支所60万円/人、干潟支所62万円/人となります。第2庁舎と干潟支所では2倍近い



開きがあり、施設利用の効率性に大きな差異があることが確認できます。

施設の工事費用は、飯岡支所、干潟支所共に年間約200万円、本庁舎が年間約500万円と最も高くなっています。

全ての施設を合算すると庁舎機能に係る維持管理コストは、年1億6千万円程度となっています。市民一人当たりでは、2,282円を負担していることとなります。



市民一人当たりの負担額

2,282円

庁舎全体の施設維持管理費を市民一人が年間2,282円を負担しています。

※負担額は、施設の維持管理等のすべての費用で、純粋な市の財源負担額となります。勤務する職員の人件費は含みません。

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
1	本庁舎		構造安全性	2	耐震診断済み、耐震性なし
			建物健全度	1	老朽化著しい
			バリアフリー対応	2	エレベーターなし。障がい者用トイレ等あり。
			環境安全性	3	アスベスト含有吹付材あり(封じ込め対応)
			利用効率性	2	勤務職員数あたりの単位床面積が小さいが、狭隘である。
			費用効率性	4	勤務職員数あたりの経費少ない
2	第2庁舎		構造安全性	2	耐震診断済み、耐震性なし
			建物健全度	2	老朽化進展
			バリアフリー対応	1	エレベーター、障がい者用トイレ等なし
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	4	勤務職員数あたりの単位床面積が小さい。適当。
			費用効率性	4	勤務職員数あたりの経費少ない
3	南分館		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	経年劣化少ない
			バリアフリー対応	1	エレベーター、障がい者用トイレ等なし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	勤務職員数あたりの単位床面積が大きい。適当。
			費用効率性	2	勤務職員数あたりの経費多い

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
4	海上支所	<p>海上支所 構造安全性評価 費用効率性評価 利用効率性評価 環境安全性評価 建物健全度評価 バリアフリー評価</p>	構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	3	防水性能の低下あり
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	勤務職員数あたりの単位床面積が大きい
			費用効率性	3	勤務職員数あたりの経費少ない
5	飯岡支所	<p>飯岡支所 構造安全性評価 費用効率性評価 利用効率性評価 環境安全性評価 建物健全度評価 バリアフリー評価</p>	構造安全性	1	耐震診断未診断
			建物健全度	3	多少の老朽化有
			バリアフリー対応	2	エレベーターなし
			環境安全性	2	アスベスト含有吹付材あり(飛散なし)
			利用効率性	2	勤務職員数あたりの単位床面積が大きい
			費用効率性	2	勤務職員数あたりの経費多い
6	干潟支所(車庫・会議室棟含む)	<p>干潟支所(車庫・会議室棟含む) 構造安全性評価 費用効率性評価 利用効率性評価 環境安全性評価 建物健全度評価 バリアフリー評価</p>	構造安全性	5	耐震基準は満たしている
			建物健全度	2	老朽化進展。防水機能低下あり
			バリアフリー対応	4	エレベーターあり。障がい者用トイレなし
			環境安全性	2	地下室、ロビー等にアスベスト含有吹付材あり(飛散なし)
			利用効率性	2	勤務職員数あたりの単位床面積が大きい
			費用効率性	2	勤務職員数あたりの経費多い

⑤ 分析・課題抽出

市庁舎は、行政サービスの拠点として、また、災害時の防災拠点としての機能が求められる施設です。

行政サービスの拠点性は、旧市町庁舎を活用し市民の利便性を考慮していますが、反面施設規模と勤務者数が見合っておらず、施設の利用効率性に大きな問題を抱えています。また、本庁機能の分散により、市民の利便性や行政事務の効率化を阻害している面も存在しています。

防災拠点として本庁舎及び第2庁舎は、築後49年、築後44年が経過し、老朽化が著しく、また耐震性能も欠けている状態です。飯岡支所も同様に、築後39年が経過し老朽化が著しく耐震診断も未実施の状態です。これらの施設は、近い将来耐用年数を迎え建物そのものの更新が必要となってきます。現在、平成30年竣工を目標に新庁舎建設に向けた検討を進めており、新庁舎建設後は、現在の庁舎の活用方法が課題となります。

(2) 医療・保健・福祉施設

分類1 医療関連施設

① 施設概要

市内には、市営の医療機関は、旭中央病院を除き滝郷診療所のみとなっています。滝郷診療所は、滝郷地域を中心とした市民の医療を担う施設として、昭和46年に建設され築後42年を経過しています。

施設は、既に耐用年数を超えて使用されており、老朽化が著しく耐震診断も未実施です。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
7	滝郷診療所	213	1971 (S46)	39	2010 (H22)	耐震未診断

② 利用実態

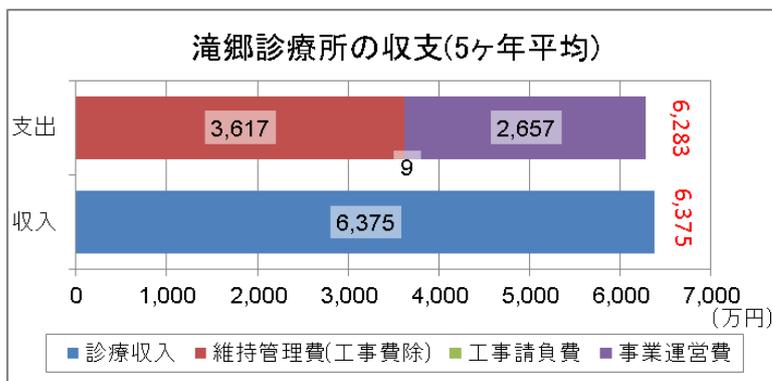
平成23、24年度は、診療所の医師確保が困難な状況にあり、診療日数を減じて施設を運営してきました。平成25年度からは、常勤医師を確保し通常診療を行っています。

過去6年間の患者数の推移では、開所日数の減少もあり患者数は若干の減少傾向が見られますが、1日当たり約35人に利用されています。

年度	患者数(人)	開所日数	1日当たり患者数(人/日)
H19	8,115	243	33
H20	7,769	243	32
H21	7,847	242	32
H22	7,606	243	31
H23	7,176	175	41
H24	4,991	126	40
年平均	7,251	212	35

③ コスト分析

過去5年間の施設運営にかかる費用の平均をみると、支出経費の合計6,283万円に対して6,375万円の診療収入となり、施設運営に関しては、全て診療収入で賄えている状況です。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
7	滝郷診療所		構造安全性	1	耐震診断未実施
			建物健全度	2	耐用年数超過。老朽化著しい
			バリアフリー対応	2	バリアフリー未対応
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	3	類似施設ないため3
			費用効率性	3	類似施設ないため3

⑤ 分析・課題抽出

本施設は、耐用年数を経過し老朽化が著しい建物です。また、耐震診断やアスベスト含有吹付材の使用状況調査も実施していません。さらに、バリアフリーへも未対応であり、診療施設として位置づけられているなかでは、これらの対応が大きな課題となっています。

施設の維持管理及び事業運営の経費に関しては、毎年一定の患者数が見込まれていることから市の負担も無く健全な経営が保たれています。

今後も引き続き施設を運営していくためには、継続的な医師確保に努めるとともに、施設機能の回復及び向上のための、施設改修若しくは施設の更新が求められます。

分類2 保健センター

① 施設概要

市内には、市民の健康の保持及び増進を目的に4つの保健センターを設置しており、健康診査や保健相談、衛生教育や疾病予防等に関するサービスを提供しています。

4つの施設は、合併前のそれぞれの団体に設置された施設であり、現在では、旭市保健センターと飯岡保健センターに職員を配置し、ほかの2つの施設は検診等の開催時のみ開館する運営形態となっています。

旭市保健センターは、第二市民会館と併せて、平成25年度において耐震改修を行いました。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備考
8	旭市保健センター	760	1980 (S55)	50	2030 (H42)	耐震性有(耐震改修済) 2階：第二市民会館 739 ㎡
9	海上保健センター	832	1990 (H2)	50	2040 (H52)	耐震性有(新耐震基準建物)
10	飯岡保健センター	1,240	1996 (H8)	50	2046 (H58)	耐震性有(新耐震基準建物)
11	干潟保健センター	3,409 (595)	1982 (S57)	50	2032 (H44)	耐震性有 (Is0.93) <干潟支所

※保健センター機能を内包する主たる機能施設は、備考欄に「<」の記号をもって表記する。

※()内面積は、保健センター機能部分の面積。

② 利用実態

旭市保健センターには、保健センター業務を統括する健康管理課を配置していますが、施設面積の制限から支援班を飯岡保健センターに分散配置しています。

また、海上保健センター及び干潟保健センターは、主に健診等の会場に利用され職員の常駐はありません。このうち干潟保健センターについては、干潟支所1階に多目的に活用できるスペースがあることから、市民の利便性を考慮して支所1階での健診等が多くなっています。

海上保健センター及び干潟保健センターの利用頻度は、低い状況にあります。

施設名称	年平均利用件数(件)	年平均利用者数(人)	年平均健診等施設稼働日数(日)
旭市保健センター	270	18,323	100
海上保健センター	99	6,844	59
飯岡保健センター	415	10,926	197
干潟保健センター	86	3,764	17

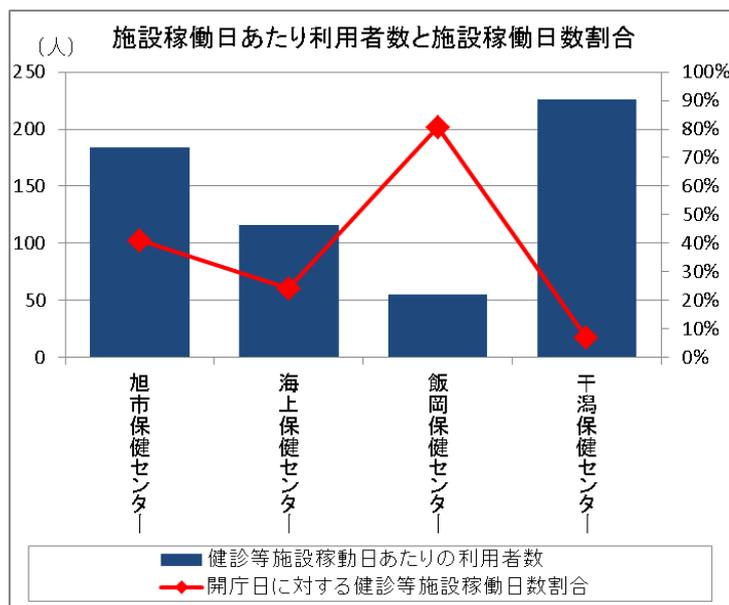
※施設稼働日数は、市が健診や相談会、献血等を開催する日数(健康カレンダーから)。

※各数値は、平成19年度から平成24年度までの年度平均値。

年間の開庁日に対する、健診等の開催日数の割合を比較すると、最も施設稼働率が高いのは、飯岡保健センターで81%、最も低いのは干潟保健センターの7%となっており、施設間の稼働率の開きが大きくなっています。対して、健診等の開催日当たりの利用者数で比較すると、最も多いのは干潟保健センターで226人、最も少ないのは飯岡保健センターで56人となっており、大きな開きが生じています。これは、干潟保健センターが成人を対象にした集団健診のみの利用に対し、飯岡保健センターは成人の健診等に加え乳幼児を対象にした様々な健

診等を開催していることによるものです。

保健センター内の各室の稼働率等の詳細把握はしていませんが、稼働率の低い施設にあっては、非稼働日の施設の活用方法、稼働率が高くても利用人数の少ない施設にあっては、適正な施設規模等を複合的に検証する必要性が生じています。

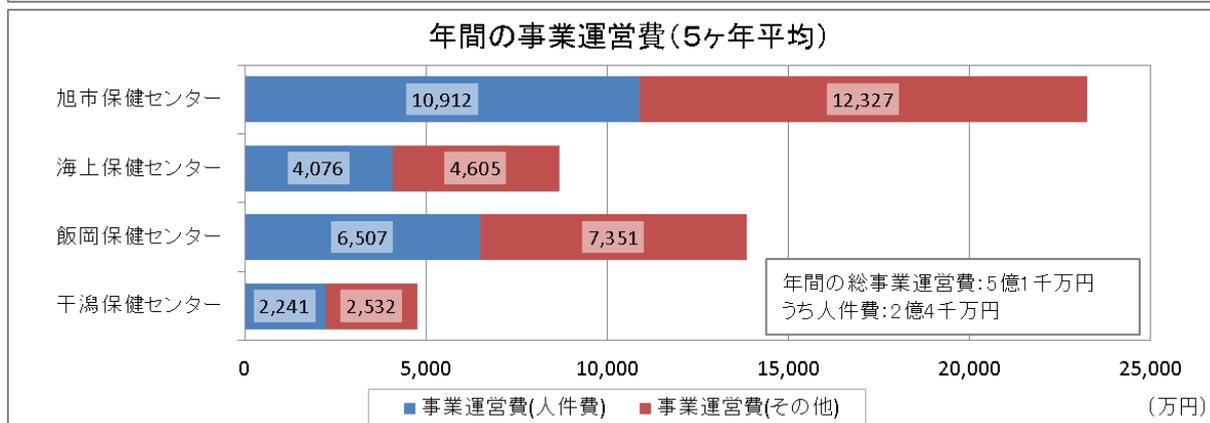
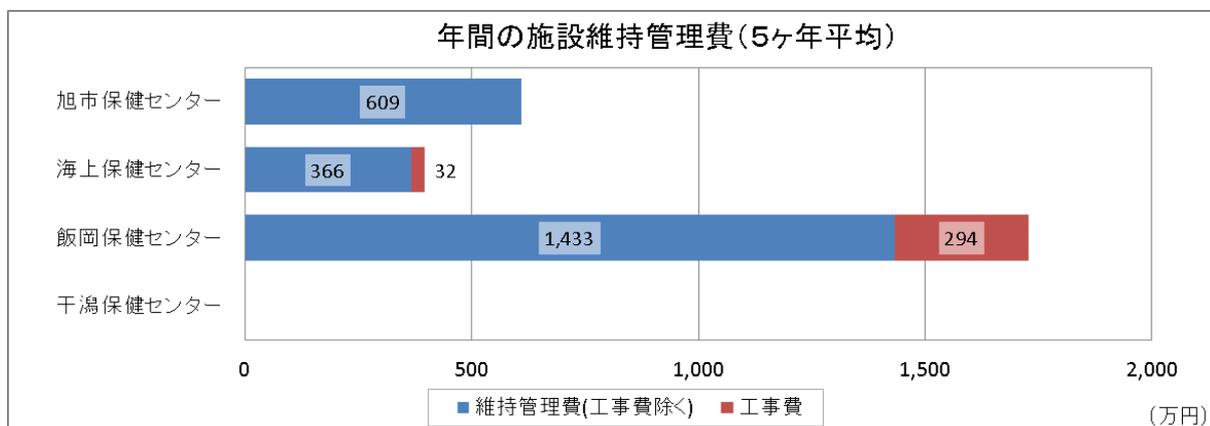


③ コスト分析

過去5年間の維持管理費の平均を比較すると、最も経費がかかっているのは、飯岡保健センターで約1,700万円、次いで旭市保健センターで約600万円、干潟保健センターでは経費の計上が無い状況です。

しかしながら、飯岡保健センターの維持管理費用には、隣接する「いいおかけんこうセンター」の光熱水費が計上されており、干潟保健センターは、維持管理費用を干潟支所で計上しているため単純な比較ができない状況です。

飯岡保健センターは、近年空調機器の修繕、更新等が発生しているため、工事費が多く計上されています。

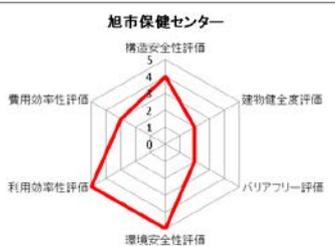
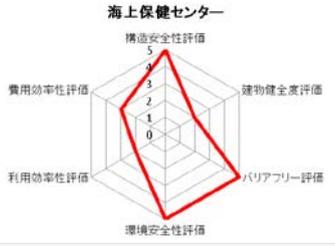
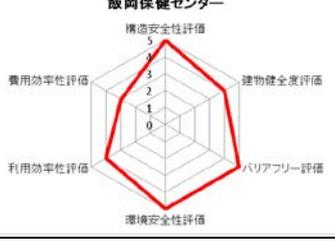
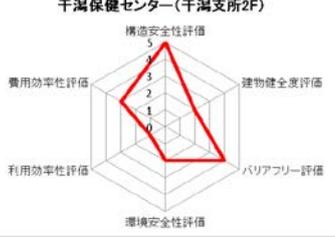


※各施設の事業運営費は、総事業運営費を利用者数の割合で按分した数値。

過去5年間の保健センター業務の事業運営費の平均額は、全体で約5億1千万円となっています。そのうち47%を人件費が占めていますが、平成17年の合併以降、人員数の削減や各種健診業務の効率化を計り、事業運営費の圧縮に努めています。

市民一人当たりの負担額	
 <p>398円</p>	<p>保健センター施設全体の施設維持管理費を市民一人が年間398円負担しています。</p> <p>※負担額は、施設管理にかかる純粋な市の財源負担額となります。</p>
 <p>12,683円</p>	<p>保健センター事業にかかる事業運営の費用は利用者一人当たり市が年間12,683円負担しています。</p> <p>※負担額は、健康診断、検診等の保健センター事業にかかる純粋な市の財源負担額となります。</p>

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
8	旭市保健センター		構造安全性	4	平成25年度耐震改修中
			建物健全度	2	空調設備、消防設備更新が必要
			バリアフリー対応	2	エレベーターなし。
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	5	単位面積当たりの利用者数に施設稼働率を乗じた数値が最も高い
			費用効率性	3	比較困難なため未評価
9	海上保健センター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	2	空調設備の大幅な施設更新が必要
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの利用者数に施設稼働率を乗じた数値が低い。施設稼働率低い
			費用効率性	3	比較困難なため未評価
10	飯岡保健センター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	近年、設備修繕が増加傾向にある
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	単位面積当たりの利用者数に施設稼働率を乗じた数値が高い。施設稼働率が最も高い
			費用効率性	3	比較困難なため未評価
11	干潟保健センター(干潟支所2F)		構造安全性	5	耐震基準は満たしている
			建物健全度	2	老朽化進行。防水機能低下あり
			バリアフリー対応	4	エレベーターあり。障がい者用トイレなし
			環境安全性	2	地下室、ロビー等にアスベスト含有吹付材あり(飛散なし)
			利用効率性	1	単位面積当たりの利用者数に施設稼働率を乗じた数値が最も低い。施設稼働率が最も低い
			費用効率性	3	比較困難なため未評価

⑤ 分析・課題抽出

各施設を詳細に分析し問題点を抽出します。

◆ 旭市保健センター

健康管理課を配置し、4つの保健センターの中心的役割を担う施設です。昭和55年建設の最も古い施設で、建築後既に33年が経過することから老朽化が進行し、特に空調設備や消防設備等の大規模改修が今後必要となることが予想されます。建物の耐震性確保のため平成25年度に耐震改修工事を行いました。

健診等での施設の利用者数は、他の施設に比べ最も多く、施設の利用効率性は高くなっていますが、健診等の利用者の駐車スペース不足という課題を抱えています。

また、施設が狭く健康管理課支援班を飯岡保健センターに配置しているため、事務執行面の効率性に課題を抱えています。

◆ 海上保健センター

本施設は、平成2年に建設された比較的新しい施設ですが、建築後20年以上を経過し、今後は空調設備等の設備の修繕、更新が必要になってきます。

施設には、現在職員の常駐はありません。また、平成25年度から施設の一部を「旭市子ども発達センター」として活用しています。保健センター機能としての利用は、主に健診等の開催時のみであり利用頻度は低い状況となっています。

◆ 飯岡保健センター

本施設は、平成8年に建設された保健センターの中では最も新しい施設ですが、近年空調設備の修繕、更新等に多くの費用がかかっており、維持管理費用が増大しています。

施設には、健康管理課支援班の職員が常駐し、主に母子保健業務を中心に事業を行っています。健康管理課の組織を旭市保健センターと飯岡保健センターに分散配置していることで事務執行に関する効率性に課題が生じています。

施設は、健診等での利用頻度が他施設に比べ最も高くなっていますが、施設規模に対して利用者数が少ないなど、施設利用効率性の一部に課題が生じています。

◆ 干潟保健センター

本施設は、干潟支所の2階に設置し、建築後31年が経過し、施設の老朽化が目立っています。海上保健センターと同様に職員の常駐は無く、主に健診等の開催時のみ開館しています。

施設は、開庁日の7%程度の日数しか利用されておらず、施設の利用頻度が極端に低いことから、施設の利用効率性に大きな課題を抱えています。さらに、実態としては干潟支所1階に余裕スペースがあり、市民の利便性を考慮し健診等においては1階ロビーを多く活用しているため、数字以上に利用効率性に課題が生じています。

分類3 健康関連施設

① 施設概要

市内には、市民の健康の増進及び介護予防等を目的に、3つの健康増進センターを設置しています。施設内のトレーニング器具は、インストラクターによる助言、指導のもと健康増進に役立てることができます。また、海上健康増進センターには、歩行用温水プールが、あさひ健康福祉センターには浴場が設置されています。

あさひ健康福祉センターは、隣接するあさひパークゴルフ場管理棟の2階部分と連結しており、管理棟2階をトレーニングルームとして活用しています。

3つの施設は、建築後10年程度の新しい施設となっています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備考
12	あさひ健康福祉センター	(895)				
	あさひ健康福祉センター	650	2004 (H16)	38	2042 (H54)	耐震性有(新耐震基準建物)
	トレーニングルーム	(245)	2008 (H20)	50	2046 (H58)	耐震性有(新耐震基準建物) くあさひパークゴルフ場管理棟
13	海上健康増進センター	571	2003 (H15)	38	2041 (H53)	耐震性有(新耐震基準建物)
14	いいおかけんこうセンター	300	2003 (H15)	50	2053 (H65)	耐震性有(新耐震基準建物)

※健康関連施設機能を内包する主たる機能施設は、備考欄に「く」の記号をもって表記する。

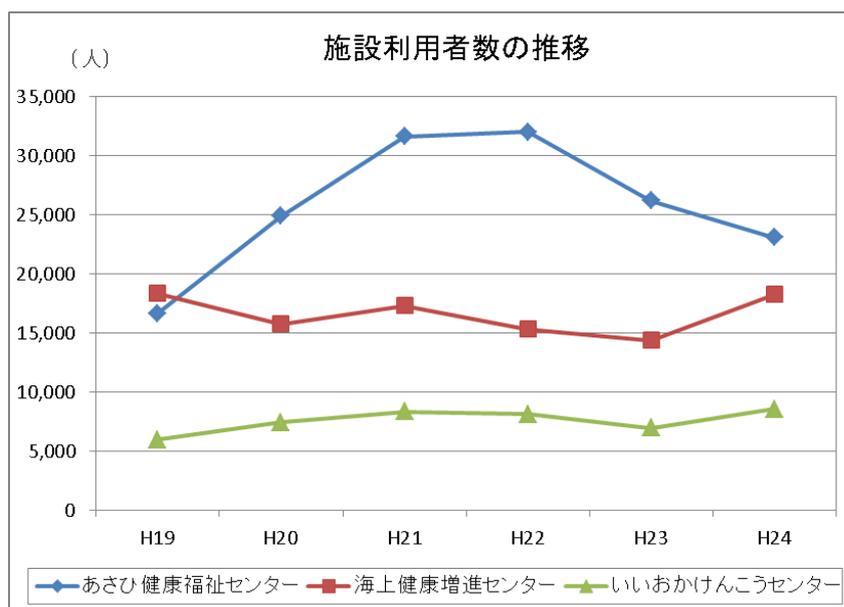
※()内面積は、健康関連機能部分の面積。

② 利用実態

各施設の年間の利用者数は、あさひ健康福祉センターが最も多く約26,000人、いいおかけんこうセンターが最も少なく約7,600人となっています。各年度の利用者数の推移をみると、あさひ健康福祉センターを除き、震災直後はいったん減少しますが、その後回復しています。

あさひ健康福祉センターは、平成22年度をピークに現在減少傾向にあり、

2年間で約7,000人減少しています。この理由としては、平成23年度に震災後一定期間施設利用を制限したことや、平成24年度に運営形態を指定管理者制度から市直営へと変更したこと、営業日数や営業時間が減少したことによるものと考えられます。また、震災以後、浴場での温泉の提供ができないことによる魅力の低下も要因の一つと考えられます。



施設名称	年平均利用者数(人)	年平均施設稼働日数(日)	1日当たりの利用者数(人)	単位面積当たりの年間利用者数(人/㎡)
あさひ健康福祉センター	25,618	341	75	29
海上健康増進センター	16,969	295	58	30
いいおかけんこうセンター	7,650	295	26	26

※各数値は、平成23年度を除く平成19年度から平成24年度までの年度平均値。

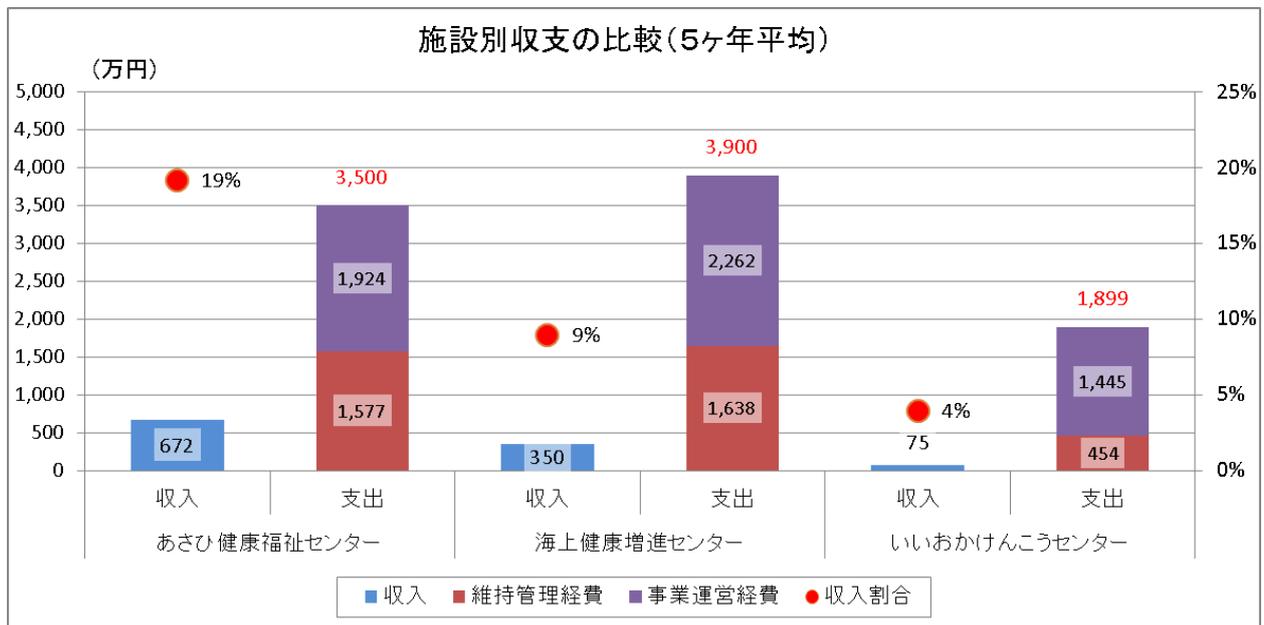
③ コスト分析

過去5年間の収入と維持管理費、事業運営費の年間平均額を施設別に比較すると、最も収入が多いのがあさひ健康福祉センターの672万円、最も少ないのがいいおかけんこうセンターの75万円です。最も支出が多いのは、海上健康増進センターの3,900万円で、最も少ないのはいいおかけんこうセンターの1,899万円です。

それぞれの施設の支出に対する収入割合を比較すると、最も高いのがあさひ健康福祉センターで19%、最も低いのがいいおかけんこうセンターで4%となっており、どの施設も施設の維持運営にかかる経費のほとんどを市が負担しています。

利用者一人当たりの市の負担額を比較すると、最も負担が大きい施設は、いいおかけんこうセンターで2,384円、最も小さい施設はあさひ健康福祉センターの1,104円と2倍以上の開きが生じています。

なお、いいおかけんこうセンターの光熱水費は、飯岡保健センターに含めて集計しているため、本分析には含まれていません。



※海上健康増進センターといいおかけんこうセンターの年平均収入額は、使用料無料期間であった平成19年度を除く平均値。

施設名称	年平均利用者数(人)	年平均市の負担額(万円)	利用者一人当たりの市の負担額(円/人)
あさひ健康福祉センター	25,618	2,828	1,104
海上健康増進センター	16,969	3,550	2,092
いいおかけんこうセンター	7,650	1,824	2,384

利用者一人当たりの市の負担額の大小比較	
いいおかけんこうセンター	あさひ健康福祉センター
 2,384円	 1,104円

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
12	あさひ健康福祉センター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	軽微修繕で対応可能
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの利用者数少ない
			費用効率性	4	他施設に比べ収益性高く、利用者一人当たりに対する市負担額が最も少ない
13	海上健康増進センター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	軽微修繕で対応可能
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの利用者数少ない
			費用効率性	2	利用者一人当たりの市負担額が多い。また、維持管理費が高い。
14	いいおかけんこうセンター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	築後10年程度で良好
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの利用者数少ない
			費用効率性	2	収益性低く、利用者一人当たりの市負担額が最も多い。

⑤ 分析・課題抽出

◆ あさひ健康福祉センター

建物は、平成16年に建設された比較的新しい施設で、現在は、市直営で運営しています。平成20年には、隣接地にオープンしたあさひパークゴルフ場管理棟の2階を当センターのトレーニングルームとして使用するなど、パークゴルフ場と一体となって市民の健康増進に活用されています。施設には、浴室を完備し、震災以前は「かんぼの宿あさひ」から温泉の提供を受けていましたが、震災後は、その温泉が利用できなくなり、魅力の一つが低下しています。

また、浴室を設置しているため、今後は、ボイラー等の機械設備の老朽化に伴う維持管理費の増大も見込まれるため、設備の適正更新が課題となります。

施設の利用者数は、他の施設に比べ最も多くなっていますが、施設規模に対して比較するとそれほどの違いはありません。また、近年は利用者数が減少傾向にあります。

◆ 海上健康増進センター

建物は、平成15年に建設された比較的新しい施設で、市内の公共施設で唯一歩行用温水プールを有しています。また、施設は、海上支所、海上公民館及び海上保健センターと隣接し、海上地区の拠点施設群の中にあります。

施設には、歩行用温水プールのほかトレーニングルームもあり、施設利用者は、年平均約17,000人となっています。

施設にかかるコストでは、温水プールを設置しているため、最も多くの維持管理費がかかっており、施設利用者一人当たりに対する市の負担額は、あさひ健康福祉センターの2倍近い額となっています。今後は、老朽化していく設備の適正更新も課題となります。

◆ いいおかけんこうセンター

建物は、平成15年に建設された比較的新しい施設です。また、施設は飯岡支所、飯岡保健センター、飯岡福祉センターに隣接し、飯岡地区の拠点施設群の中にあります。

施設規模は、他の施設に比べ最も小さく、施設利用者はトレーニング利用者のみとなっています。

施設にかかるコストは、類似施設の中で最も少ないが、同時に施設利用者も少なく、利用者一人当たりで比較すると、最も市の負担割合が高く、あさひ健康福祉センターの2倍以上となっています。少ない施設利用者数や効率的コスト運営に課題があります。

分類4 福祉関連施設

① 施設概要

飯岡福祉センターは、市民の福祉及び健康の増進を図ることを目的として、各種の相談業務や高齢者の介護予防事業等のサービスを提供しています。施設は、平成8年建設と比較的新しく飯岡保健センターとの合築で、いいおかけんこうセンターが隣接しています。

海上ふれあいサポートセンターは、市民の介護予防や地域福祉の推進及び健康の増進を目的に設置し、高齢者の介護予防と在宅福祉事業等のサービスを提供しています。施設は、昭和47年に建設され、築後40年を経過し、耐震診断が未実施の状況です。

旭市福祉作業所は、在宅心身障がい者の福祉の増進を目的に設置し、心身障がい者の社会的自立に向け、作業訓練や生活指導、相談支援等のサービスを提供しています。施設は、平成8年に建設され、平成13年に千葉県土地開発公社から譲り受けた建物を利用しています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備考
15	飯岡福祉センター	1,634	1996 (H8)	47	2043 (H55)	耐震性有(新耐震基準建物)
16	海上ふれあいサポートセンター	322	1972 (S47)	50	2022 (H34)	耐震未診断
17	旭市福祉作業所	103	1996 (H8)	30	2026 (H38)	耐震性有(新耐震基準建物)

② 利用実態

福祉関連施設のうち飯岡福祉センターは、年間利用者数が約35,000人と最も多く、先の健康関連施設と比較しても多くの利用者があることが確認できます。

飯岡福祉センター及び海上ふれあいサポートセンターが不特定多数の者が利用するのに対し、旭市福祉作業所は、利用者が特定されます。

施設名称	年平均利用者数(人)	年平均施設稼働日数(日)	1日当たりの利用者数(人)	単位面積当たりの年間利用者数(人)
飯岡福祉センター	34,718	290	120	21
海上ふれあいサポートセンター	1,765	225	8	5
旭市福祉作業所	1,918	236	8	19

飯岡福祉センターは、全体の利用者の約6割が浴室・ふれあい広間を利用している一方、研修室、ボランティアルーム、機能回復室は、1日当たりの利用者数で見ると10人に満たず、利用状況が低いことが確認できます。

海上ふれあいサポートセンターの利用者のほとんどが、多目的ホールを利用していることが確認できます。

施設名称(室名)	延床面積(m ²) (室面積)	年平均 利用者数(人)	年平均 施設稼働日数 (日)	1日当たり利用 者数(人/日)	単位面積当 り利用者数 (人/m ²)
飯岡福祉センター	1,634	34,718	290	120	21
浴室・ふれあい広間	270	20,690	290	71	77
研修室	104	1,233	290	4	12
ボランティアルーム	68	96	290	0.3	1
機能回復室	104	1,531	290	5	15
デイサービスルーム	128	5,785	290	20	45
デイサービス浴室	177	5,383	290	19	30
海上ふれあいサポートセンター	322	1,765	225	8	5
多目的ホール	101	1,646	225	7	16
相談室	17	120	225	0.5	7

③ コスト分析

3つの施設は、指定管理者により運営されてきましたが、旭市福祉作業所は平成25年度から運営形態を直営へと変更しています。施設の使用にあたって、使用料を徴収しているのは飯岡福祉センターのみとなります。

過去5年間における指定管理料に施設修繕工事費と施設管理人件費を加えた年度平均支出額は次のとおりです。

施設名称	年平均 市負担額(万円)	利用者一人当たり 市負担額(円)
飯岡福祉センター	990	285
海上ふれあいサポートセンター	120	675
旭市福祉作業所	920	4,794

利用者が特定されない飯岡福祉センターと海上ふれあいサポートセンターについて、施設維持管理及び事業運営にかかる費用を利用者一人当たりで比較してみると、2倍以上の開きがあることが確認できます。

利用者一人当たりの市の負担額の大小比較	
海上ふれあいサポートセンター	飯岡福祉センター
 675円	 285円

※旭市福祉作業所は、利用者が特定される施設のため比較対象外とした。

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
15	飯岡福祉センター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	軽微修繕で対応可能
			パリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの利用者数少ない 利用率の低い部屋がある
			費用効率性	4	利用者一人当たりに対する市負担額が少ない

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
16	海上ふれあいサポートセンター		構造安全性	1	耐震診断未診断
			建物健全度	3	老朽箇所有
			バリアフリー対応	2	一部対応済み。エレベーターなし
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	2	単位面積当たりの利用者数少ない
			費用効率性	4	利用者一人当たりに対する市負担額が少ない
17	旭市福祉作業所		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	改修後10年程度で良好
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	対象外(比較対象類似施設なし)
			費用効率性	3	対象外(比較対象類似施設なし)

⑤ 分析・課題抽出

◆ 飯岡福祉センター

本施設は、平成8年に建設された比較的新しい施設ですが、近年は設備の修繕・更新等に多くの費用がかかっており、維持管理費用が増大しています。

施設には、指定管理者である社会福祉法人旭市社会福祉協議会が常駐し、施設の管理運営を行っています。施設は、デイサービス等の浴室利用やボランティア活動拠点として年間35,000千人近くの方に利用されていますが、ボランティアルームなどの一部の部屋の稼働率が低いことが確認できます。

なお、浴室を備えていることから、ボイラー等の機械設備の老朽化に伴った修繕や設備更新が今後予想されます。

◆ 海上ふれあいサポートセンター

建物は、昭和47年に建設された旧海上町の有線放送施設を、平成12年に改修し介護予防施設として利用しています。築後40年以上を経過し老朽化の進行に加え、耐震診断も未実施の状況です。また、高齢者が多く利用する施設でありながらエレベーター等のバリアフリーに対応していません。

施設は、指定管理者制度を活用し社会福祉法人旭市社会福祉協議会が管理し、ミニデイサービス等を行っています。施設利用者は、1日当たり10人に満たない状況です。

◆ 旭市福祉作業所

建物は、平成8年に建設されたものを平成13年に改修しており、施設機能面の課題は少なくなっています。施設は現在市が直接運営しています。

本施設は、心身障がい者の社会的自立支援施設として、特別支援学校卒業生などへの支援が民間施設を含めても不足している中で、大きな役割を担っています。

(3) 保育所・児童関連施設

分類 1 保育所

① 施設概要

市内には、旭地域に9保育所、海上地域に1保育所、飯岡地域に2保育所、干潟地域に2保育所の計14の公立保育所を設置していますが、飯岡地域の2保育所については、統合した保育所を飯岡支所脇に建設し、平成26年度にいいおか保育所として開所しています。

公立保育所の中で、建物の耐震性確保や施設更新を実施していないのは海上保育所のみとなっています。また、公立保育所のうち干潟保育所は、指定管理者制度を活用して民間により運営されています。

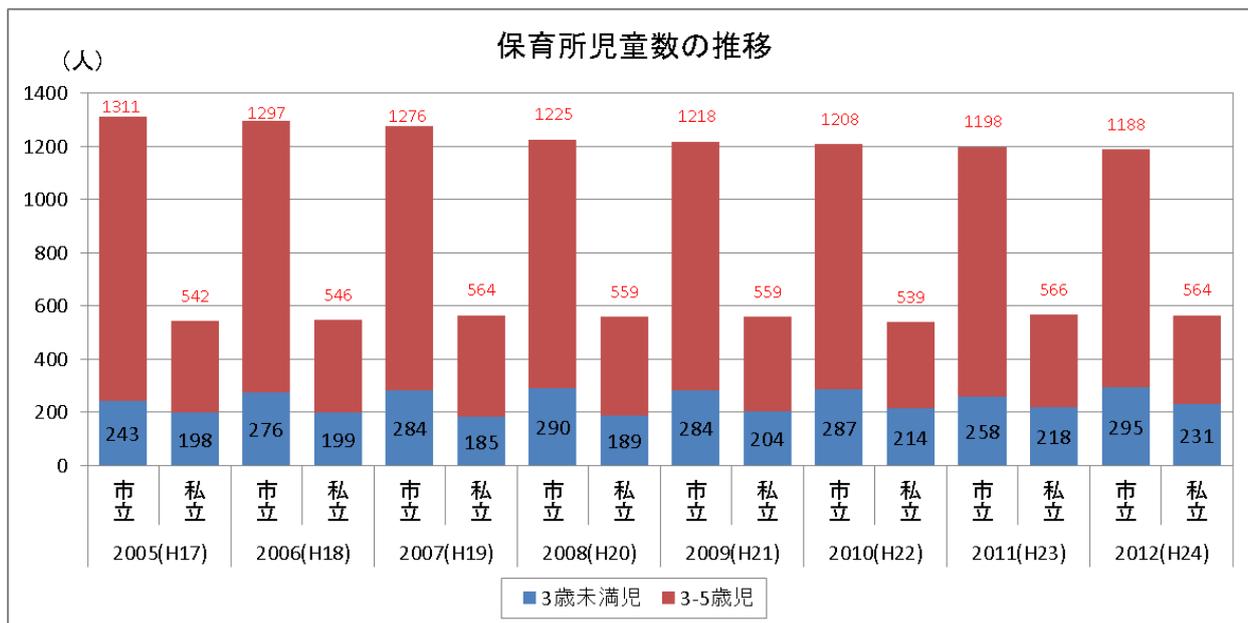
なお、市内には5つの私立保育園が認可保育所として運営されています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	H24年度入所/定員	備 考
18	中央第一保育所	1,174	1981 (S56)	47	2028 (H40)	150/150	耐震性有(耐震改修実施済)
19	中央第二保育所	546	1976 (S51)	47	2023 (H35)	70/85	耐震性有(Is0.9)
20	中央第三保育所	882	1979 (S54)	47	2026 (H38)	98/90	耐震性有(耐震改修実施済)
21	干潟保育所	858	2004 (H16)	34	2038 (H50)	111/100	耐震性有(新耐震基準建物) *民間運営
22	日の出保育所	883	1989 (H1)	47	2036 (H48)	74/120	耐震性有(新耐震基準建物)
23	とみうら保育所	862	1978 (S53)	47	2025 (H37)	101/120	耐震性有(耐震改修実施済)
24	ゆたか保育所	844	1977 (S52)	47	2024 (H36)	97/90	耐震性有(Is1.01)
25	共和保育所	824	1982 (S57)	47	2029 (H41)	116/120	耐震性有(新耐震基準建物)
26	池の端保育所	737	1994 (H6)	47	2041 (H53)	95/90	耐震性有(新耐震基準建物)
27	海上保育所	441	1972 (S47)	34	2006 (H18)	49/60	耐震性なし(Is0)
28	飯岡中央保育所	305	1969 (S44)	22	1991 (H3)	33/60	耐震性なし
29	三川保育所	693	1972 (S47)	22	1994 (H6)	95/120	(H26から新施設「いいおか保育所」)
30	まんざい保育所	789	1980 (S55)	47	2027 (H39)	32/60	耐震性有(Is0.74)
31	古城保育所	889	1987 (S62)	47	2034 (H46)	67/90	耐震性有(新耐震基準建物)

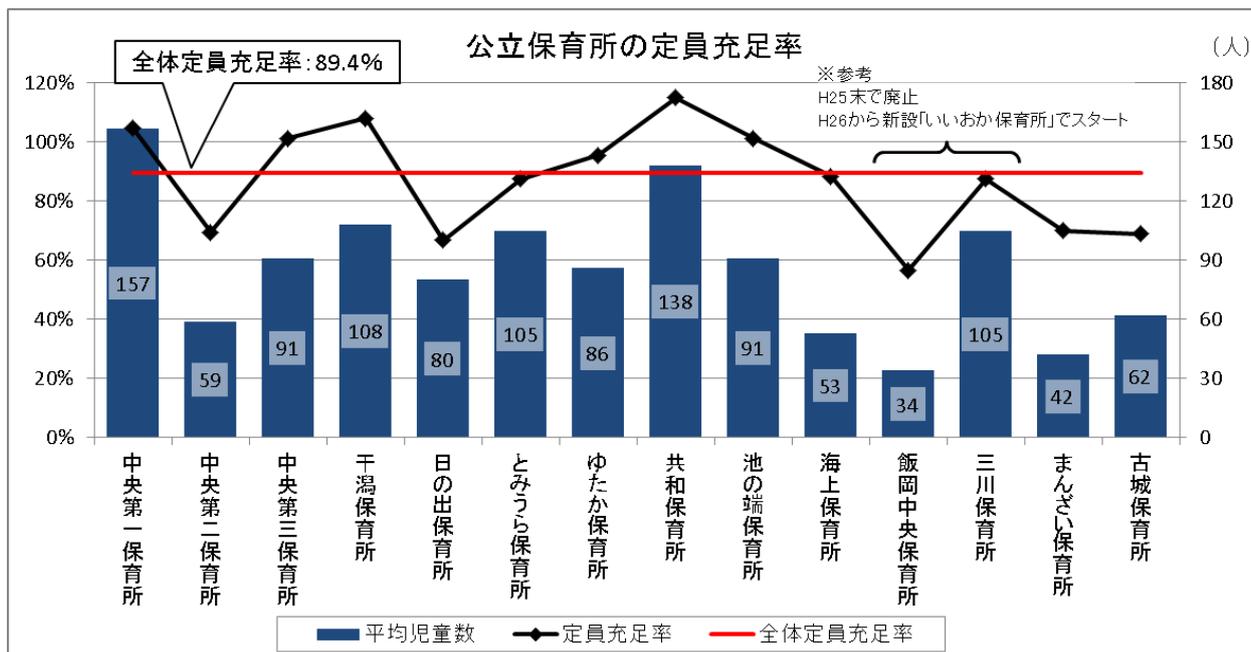
② 利用実態

公立保育所の入所児童数は、少子化の影響で年々減少傾向にあり、平成17年から24年度の8年間で約120人減少している一方、私立保育所は、約20人増加しています。

入所児童の年齢構成では、3歳未満児が年々増加しています。

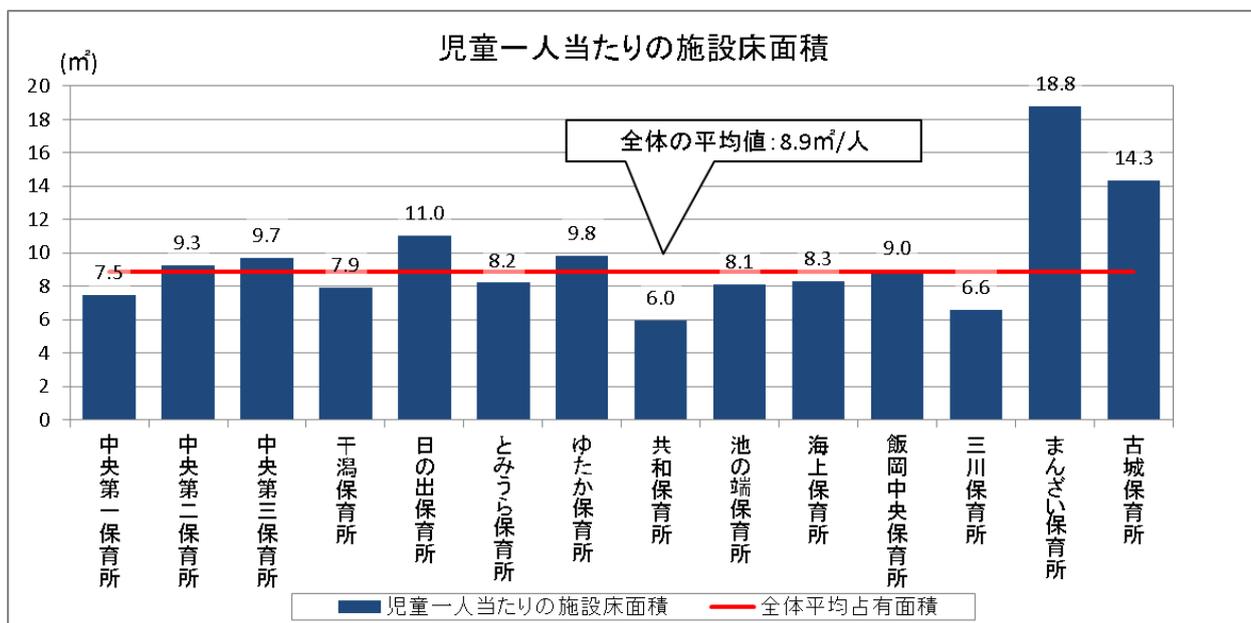


過去5年間に於ける各保育所の児童数の平均値から定員数に対する充足率をしてみると、公立保育所全体では約89%となっており、充足率の低い施設は、飯岡中央保育所、日の出保育所、古城保育所、中央第二保育所、まんざい保育所となっています。



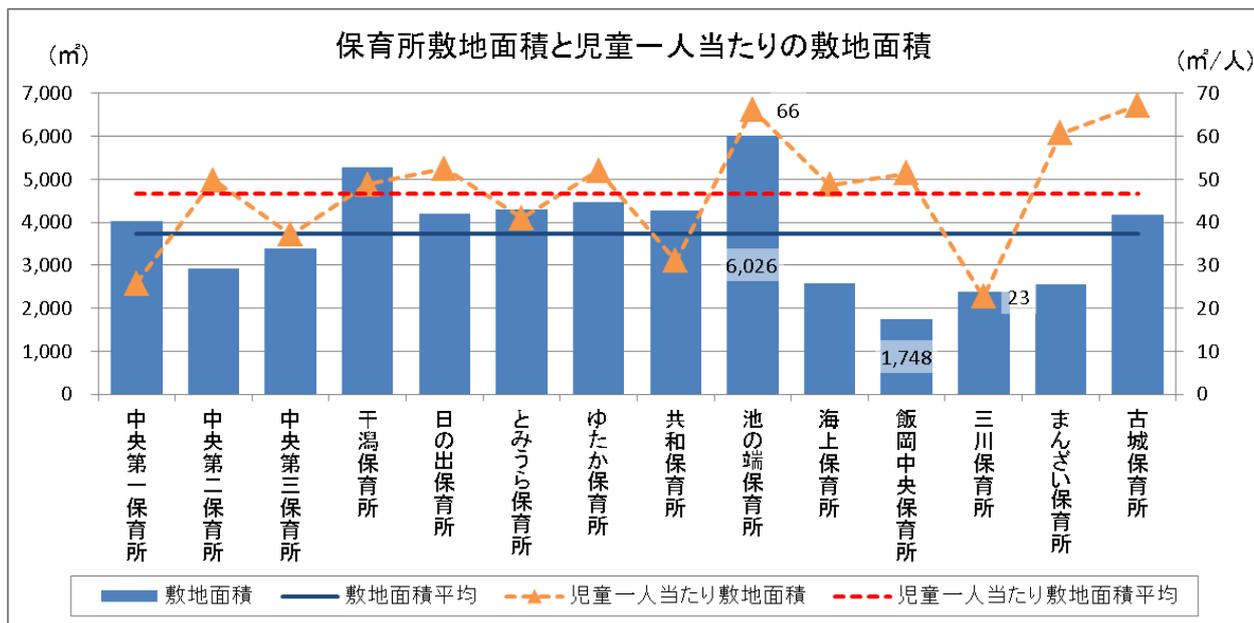
児童一人当たりの施設床面積をしてみると、全体では一人当たり8.9㎡になります。施設規模に対して、共和保育所と三川保育所は児童数が多くなっている一方、まんざい保育所と古城保育所は児童数が少なくなっています。

一人当たりの面積が最も広いまんざい保育所(18.8㎡/人)と、最も狭い共和保育所(6.0㎡/人)では、3倍以上の開きが生じています



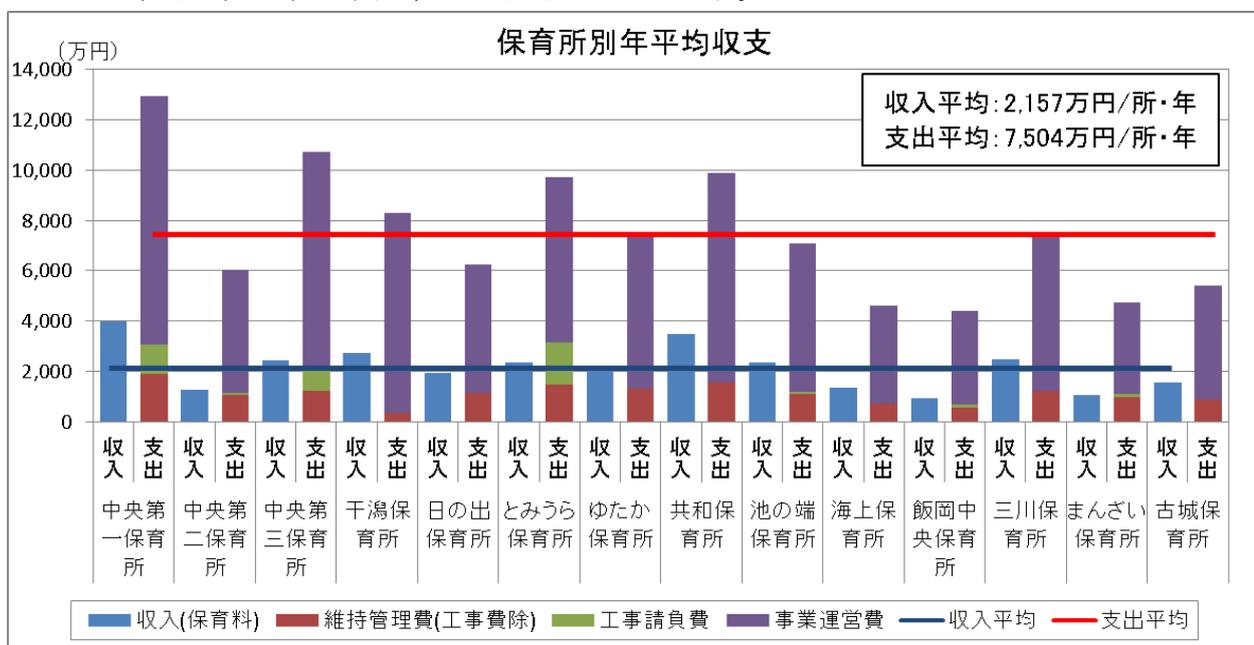
保育所の敷地面積を見てみると、全保育所の平均値は、約3,700㎡となっています。池の端保育所が約6,000㎡で最も広く、最も狭い飯岡中央保育所の約1,700㎡とは3倍以上の開きがあります。

児童一人当たりの敷地面積では、全保育所の平均値で47㎡/人となっています。池の端保育所が68㎡/人で最も広く、最も狭い三川保育所の23㎡/人とは3倍近い開きが生じています。



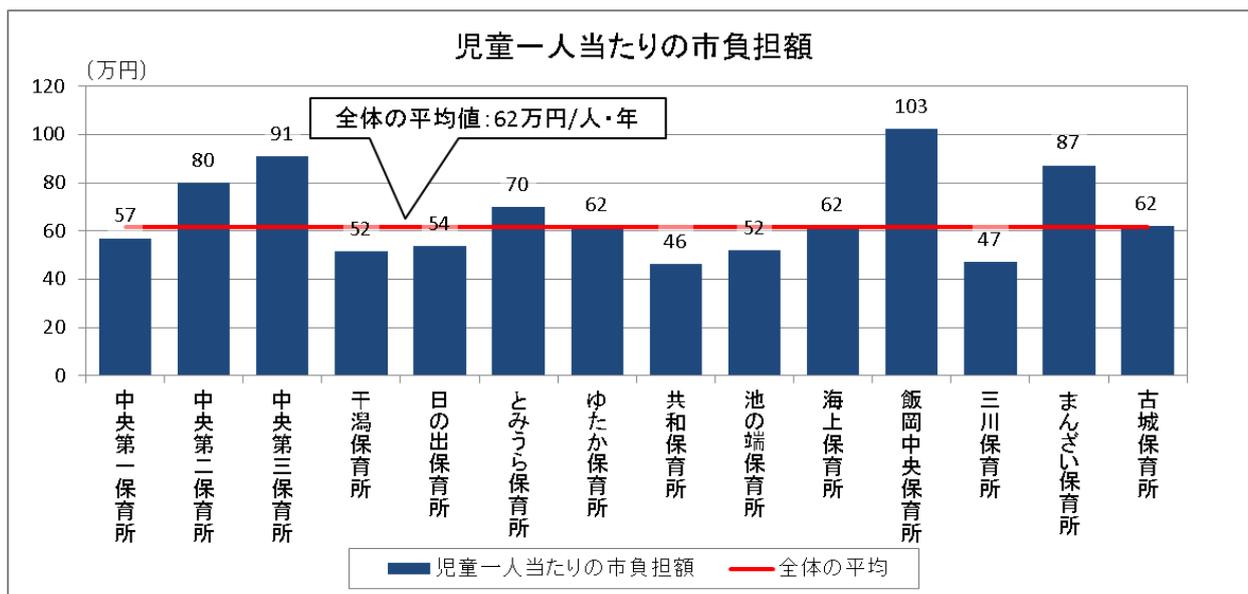
③ コスト分析

過去5年間の施設運営にかかる費用の平均を見てみると、一保育所当たりの平均では、収入(保育料)は、年約2,200万円、支出(維持管理費、工事費、事業運営費)は、年約7,500万円となり、市の負担額は年約5,300万円となっています。



児童一人当たりの年間の市の負担額を施設別に比較すると、市の負担額が多い施設は、飯岡中央保育所、中央第三保育所、まんざい保育所、中央第二保育所、とみうら保育所となっています。このうち、中央第三保育所は、平成22年度まで子育て支援センターを併設していたことから、職員の増員などコストが高くなっています。また、とみうら保育所は、平成20年度に施設の大規模改修を実施したことでコストが高くなっています。

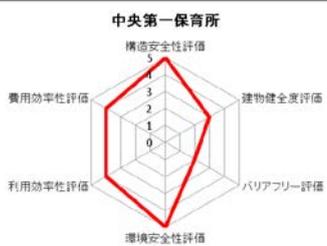
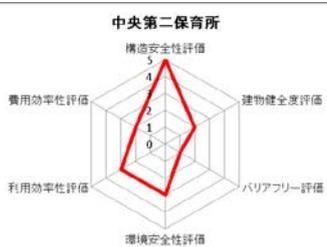
おおむね、児童数が少なく定員充足率の低い施設ほど高コストの傾向が見られます。



児童一人当たりの市の負担額の大小比較

飯岡中央保育所	共和保育所
 103万円	 46万円

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
18	中央第一保育所		構造安全性	5	耐震性有(耐震改修済)
			建物健全度	3	今後軽微な補修で対応可能
			バリアフリー対応	2	スロープ以外バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率が高く、児童一人当たり施設占有面積が小さく利用効率性高い
			費用効率性	4	児童一人当たり市負担額が少ない
			環境安全性評価	5	
19	中央第二保育所		構造安全性	5	耐震性有(Is0.9)
			建物健全度	2	老朽化の進行有(外壁塗装改修必要)
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	3	アスベスト含有吹付材有(封じ込め対応済)
			利用効率性	3	定員充足率は低いが、児童一人当たり施設占有面積は平均的
			費用効率性	2	児童一人当たり市負担額多い
			環境安全性評価	3	
20	中央第三保育所		構造安全性	5	耐震性有(耐震改修済)
			建物健全度	3	今後軽微な補修で対応可能
			バリアフリー対応	2	スロープ以外バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	定員充足率が高く、児童一人当たり施設占有面積は平均的
			費用効率性	2	児童一人当たり市負担額多い ※H22まで子育て支援センター併設のため
			環境安全性評価	5	

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
21	干潟保育所		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	築10年以内で良好
			バリアフリー対応	5	全て対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率が高く、児童一人当たり施設占有面積が小さく利用効率性高い
			費用効率性	4	児童一人当たり市負担額が少ない
22	日の出保育所		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好(震災復旧により改修済(H23))
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	定員充足率が低く、児童一人当たり施設占有面積が大きく利用効率性低い
			費用効率性	4	児童一人当たり市負担額が少ない
23	とみうら保育所		構造安全性	5	耐震性有(耐震改修済)
			建物健全度	3	今後軽微な補修で対応可能
			バリアフリー対応	2	スロープ以外バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率がやや低いが、児童一人当たり施設占有面積がやや小さく利用効率性高い
			費用効率性	3	児童一人当たり市負担額は平均的
24	ゆたか保育所		構造安全性	5	耐震性有(Is1.0)
			建物健全度	2	老朽化の進行有(外壁塗装改修必要)
			バリアフリー対応	2	スロープ以外バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	定員充足率は高く、児童一人当たり施設占有面積は平均的
			費用効率性	3	児童一人当たり市負担額は平均的
25	共和保育所		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	3	今後軽微な補修で対応可能
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率が最も高く、児童一人当たり施設占有面積も小さく利用効率性が高いが、反面、児童数と施設規模の適正化に課題がある
			費用効率性	5	利用者一人当たり市負担額が最も少ない
26	池の端保育所		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率が高く、児童一人当たり施設占有面積が小さい
			費用効率性	4	児童一人当たり市負担額が少ない
27	海上保育所		構造安全性	2	耐震性なし(Is0)
			建物健全度	1	老朽化が著しく、改築が必要
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	定員充足率は平均的で、児童一人当たり施設占有面積はやや小さい。定員数等施設規模小さい
			費用効率性	3	児童一人当たり市負担額は平均的

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
28	飯岡中央保育所		構造安全性	2	耐震性なし (H25移転改築中)
			建物健全度	1	老朽化が著しく、改築が必要
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	定員充足率が最も低く、児童一人当たり施設占有面積は平均的。定員数など施設規模小さい
			費用効率性	1	児童一人当たり市負担額が最も多い
29	三川保育所		構造安全性	2	耐震性なし (H25移転改築中)
			建物健全度	1	老朽化が著しく、改築が必要
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	定員充足率はやや低く、児童一人当たり施設占有面積は小さい。
			費用効率性	5	児童一人当たり市負担額が少ない
30	まんざい保育所		構造安全性	5	耐震性有 (Is0.74)
			建物健全度	3	今後軽微な補修で対応可能
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	1	定員充足率が低く、児童一人当たり施設占有面積が大きい。定員数に比較して施設規模大きい
			費用効率性	1	児童一人当たり市負担額が多い
31	古城保育所		構造安全性	5	耐震性有 (新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好
			バリアフリー対応	1	バリアフリー未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	1	定員充足率が低く、児童一人当たり施設占有面積が大きい。定員数に比較して施設規模大きい
			費用効率性	3	児童一人当たり市負担額は平均的

⑤ 分析・課題抽出

◆ 中央第一保育所

本施設は、昭和56年に建設され、築後30年以上を経過していますが、平成21年に耐震改修を含めた大規模改修工事を実施したことで、建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

本施設は、定員数及び児童数が最も多い施設で、定員充足率もほぼ毎年100%を満たしています。また、児童一人当たりの市の負担額も平均以下で効率的に運営されています。一方、児童数に対して敷地面積が狭いことが見受けられます。

◆ 中央第二保育所

本施設は、昭和51年に建設され、築後30年以上を経過しており、老朽化が進行しています。施設の外壁には、塗装剥離も見られ、今後は定期的な設備等の修繕のほか大規模改修が必要になると考えられます。また、アスベスト含有吹付材が使用されていることで、現在は封じ込め処置により安全性が確保されていますが、改修工事や建物の解体時には、アスベスト除却費用が必要になります。

市内の保育所の中では規模の小さい施設で、定員充足率が低く、児童一人当たりの市の負担額が多くなっており、運営の効率性に課題があります。

◆ 中央第三保育所

本施設は、昭和54年に建設され、築後30年以上を経過していますが、平成21年に耐震改修を含めた大規模改修工事を実施したことで、建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中では平均的な規模ですが、児童数に対して敷地面積がやや狭いことが見受けられます。児童一人当たりの市の負担額は、過去5年間の平均を見ると多くなっていますが、平成22年度まで子育て支援センターが同施設内に併設されていたことによるもので、現在では平均的な負担額となっており、定員充足率も高いことから効率的に運営されています。

◆ 干潟保育所

本施設は、平成16年に建設された新しい施設で、建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

施設規模は平均的ですが、敷地面積は市内の保育所の中で2番目に広がっています。定員充足率が高く、児童一人当たりの市の負担額は平均以下となっており、効率的に運営されています。

なお、本施設は、指定管理者制度による市内で唯一の公設の民間運営施設となっています。

◆ 日の出保育所

平成元年に建設され、築後20年以上を経過し震災による液状化被害を受けましたが、平成23年に、復旧工事を含めた大規模改修工事を行ったことで、建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中で規模は平均的ですが、児童一人当たりの施設床面積が広く、他の施設に比べ利用効率性が低い状況です。定員充足率は低い状況にありますが児童一人当たりの市の負担額は平均以下で、効率的に運営されています。

◆ とみうら保育所

本施設は、昭和53年に建設され、築後30年以上を経過していますが、平成20年に大規模改修工事を行ったことで、建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中で規模は平均的ですが、児童一人当たりの施設床面積は平均よりもやや狭く、利用効率性は高い状況です。定員充足率は88%とやや低く、児童一人当たりの市の負担額は、平均よりもやや多いものの概ね効率的に運営されています。

◆ ゆたか保育所

本施設は、昭和52年に建設され、築後30年以上を経過し、老朽化が進行しています。施設の外壁には、塗装剥離も見られ、今後は定期的な設備等の修繕のほか大規模改修が必要になると考えられます。

市内の保育所の中で規模は平均的ですが、児童一人当たりの施設床面積は、平均よりもやや広く、利用効率性はやや低い状況です。定員充足率は96%と高い状況にあり、児童一人当たりの市の負担額も平均的で、概ね効率的に運営されています。

◆ 共和保育所

本施設は、昭和57年に建設され、築後30年を経過していますが、平成23年に大規模改修工事を実施したことで建物の状態は良好です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

本施設は、児童数が2番目に多い施設となっており、定員充足率もほぼ毎年100%を超えています。このため、児童一人当たりの市の負担額は最も少なく効率的に運営されています。一方、児童数に対して敷地面積や施設面積が狭いことが見受けられます。

◆ 池の端保育所

本施設は、平成6年に建設され、築後20年以内の施設で、建物の状態は良好です。今後も、適正な時期での大規模改修及び定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中で最も広い敷地面積を有しています。規模は平均的ですが、児童一人当たりの施設床面積は、平均よりもやや狭く、利用効率性は高い状況です。定員充足率は101%と高い状況にあり、児童一人当たりの市の負担額は、平均より少なく効率的に運営されています。

◆ 海上保育所

本施設は、昭和47年に建設され、築後40年以上を経過した施設で老朽化が著しく、耐震性もないため、改築を含めた早急な対応が必要となっています。

市内の保育所の中で敷地面積は狭く小規模であり、児童一人当たりの施設床面積は、やや狭く利用効率性は高い状況です。児童数は減少傾向で定員充足率は88%とやや低いものの、児童一人当たりの市の負担額は平均的で概ね効率的に運営されています。

老朽化により早急な対応が求められる施設ですが、児童数の減少や海上地区にある2つの民間保育園などを考慮した、今後のあり方の検討が必要となっています。

◆ 飯岡中央保育所

本施設は、昭和44年に建設された市内で最も古い保育所施設で、築後40年以上を経過し老朽化が著しく、耐震性もない状況です。

市内の保育所の中で敷地面積は最も狭く小規模ですが、児童一人当たりの施設床面積は平均的な状況です。定員充足率は57%で児童数も市内で最も少ない状況から児童一人当たりの市の負担額は、最も多く運営の効率性に課題があります。

なお、三川保育所と統合した新たな保育所の完成後は、本施設は解体する予定です。

◆ 三川保育所

本施設は、昭和47年に建設され、築後40年以上を経過し老朽化が著しく、耐震性もない状況です。

市内の保育所の中で敷地面積は狭くやや小規模で、児童一人当たりの施設床面積も狭く利用効率性は高い状況です。定員充足率は88%とやや低いものの、児童一人当たりの市の負担額は、2番目に少なく効率的に運営されています。

なお、飯岡中央保育所と統合した新たな保育所の完成後は、本施設は解体する予定です。

◆ まんざい保育所

本施設は、昭和55年に建設され、築後30年以上を経過し老朽化が進行していますが、定期的な修繕により建物は概ね良好な状況です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中で敷地面積は狭いものの平均的な規模の施設ですが、児童一人当たりの施設床面積は、共和保育所の3倍以上で最も広く、利用効率性は低い状況です。定員充足率は70%と低く、児童数も減少傾向にあり、児童一人当たりの市の負担額も多く運営の効率性に課題があります。

◆ 古城保育所

本施設は、昭和62年に建設され、築後20年以上を経過していますが、定期的な修繕により建物は概ね良好な状況です。今後も定期的な設備等の修繕を行うことで適正な維持管理が可能です。

市内の保育所の中で規模は平均的ですが、児童一人当たりの施設床面積は、まんざい保育所に次いで広く利用効率性は低い状況です。定員充足率は69%と低いものの、児童一人当たりの市の負担額は平均的で、概ね効率的に運営されています。

本施設を含む敷地は、平成25年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域に指定され、急傾斜地の崩壊による影響を受ける可能性があることから、今後の施設配置のあり方について検討する必要があります。

分類2 児童関連施設

① 施設概要

子育て施設の一つとして、保育所のほかに乳幼児を持つ保護者の子育て支援と乳幼児の心身の健全な発育の促進を目的につどいの広場を1か所設置しています。つどいの広場では、乳幼児が自由に遊べるスペースの提供にあわせて保護者同士の交流、学習の機会、子育て情報の提供及び相談業務を実施しています。広場は、市役所南分館2階に設置していますが、建物は民間施設を賃借しています。

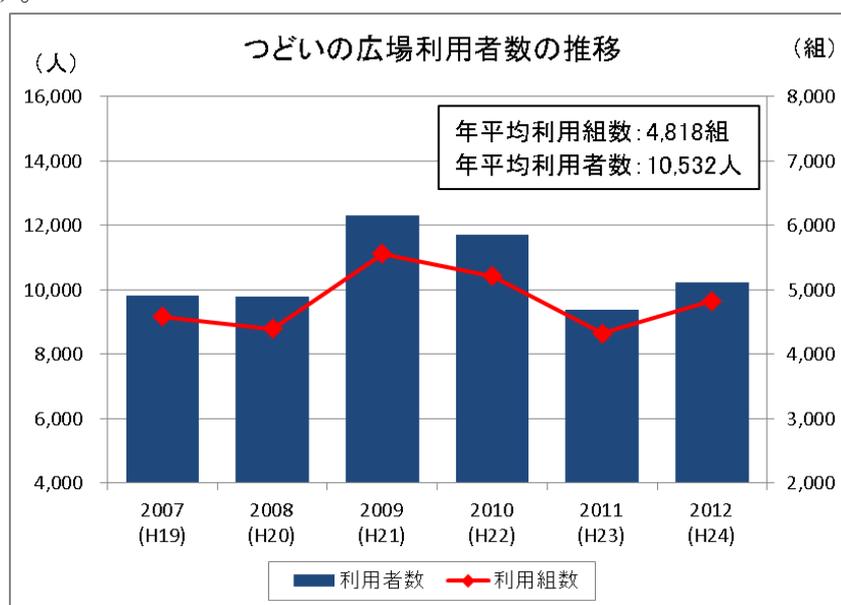
小学生で、下校後家庭において適当な保護を受けられない児童の生活指導を行い、児童の健全な育成と事故防止を目的に全小学校に児童クラブを開設しています。児童クラブは、学校施設の一部を活用し運営されていますが、児童数の増加に伴い共和小学校では共和児童クラブ室を平成24年度に建設しています。

※共和児童クラブは、建設後の運営日数が短いため、詳細分析を行っていません。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
32	南分館	745	1993 (H5)	38	2031 (H43)	耐震性有(新耐震基準建物)
	つどいの広場	252	1993 (H5)	38	2031 (H43)	
33	共和児童クラブ室	134	2013 (H25)	22	2035 (H47)	耐震性有(新耐震基準建物)

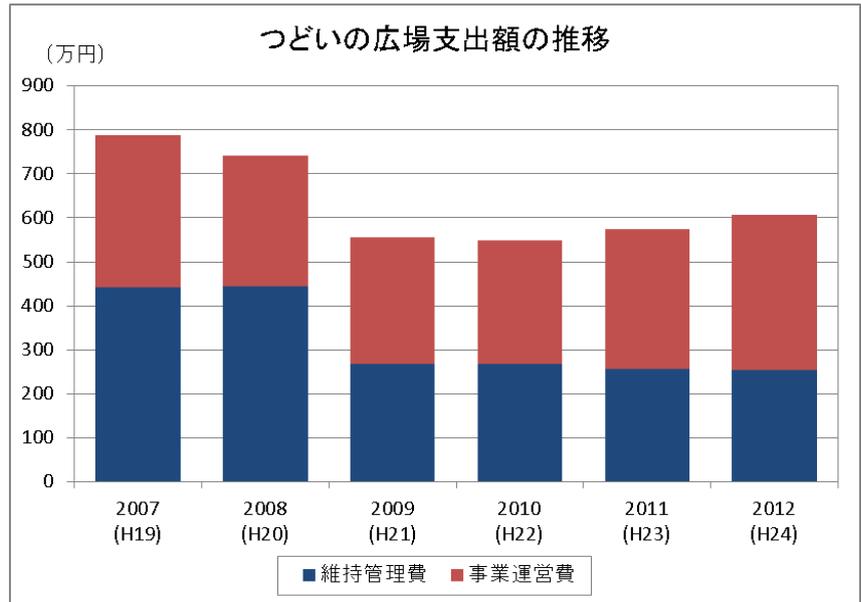
② 利用実態

つどいの広場は、平均で年間1万人以上、1日当たりでは20組43人に利用されています。保育所では、少子化の影響から児童数の減少が見られますが、本施設は安定した利用状況となっています。



③ コスト分析

平成19年から平成24年までのつどいの広場の施設事業運営に係る経費の推移をみると、施設運営にかかる経費の年平均は、約640万円となっています。平成21年から維持管理費用が大きく減少していますが、これは施設の賃貸借料が減額になったためです。なお、本施設は、乳幼児とその保護者が自由に利用できる施設として運営されており、その利用料は無料となっています。



施設の運営費について、利用者一組一回当たりでは1,260円を市が負担していることとなります。

④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
32	つどいの広場		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	経年劣化少ない
			バリアフリー対応	1	エレベーター、障がい者用トイレ等なし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
33	共和児童クラブ室		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	なし(H24年度建設)
			バリアフリー対応	5	バリアフリー対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

⑤ 分析・課題抽出

◆ つどいの広場

本施設は、市役所南分館2階に平成18年に設置し、民間施設を賃借し利用しています。

建物自体は、平成5年に建設され、築後20年程を迎えますが、広場開設時にフロア全体の改修を行ったことで建物の状態は良好です。

乳幼児とその保護者を対象とした施設ですが、2階に設置されており、なおかつバリアフリーに対応していないため、ベビーカーを利用する人や乳幼児を抱きかかえて利用するには、大きな負担となっています。利用者の特性を考えた施設改修や施設配置の改善が今後求められます。